

「いつも」と「もしも」で必要とされるスポーツ施設



**設置** 神栖市 教育委員会文化スポーツ課

**運営** 神栖防災アリーナPFI株式会社  
☎ (0299) 77-5400 FAX (0299) 93-0003

**所在地**  
・茨城県神栖市木崎1219番地7

**アクセス**  
・JR小見川駅/鹿島神宮駅から車で15分~20分

DATA

- 竣工 ・2019年
- 規模 ・延床面積 20,145.47㎡
- 総事業費 ・約121億円  
一国土交通省「社会資本総合整備交付金」約22億円

■主な設備



メインアリーナ  
観覧席2500席



プール  
25m×8コース

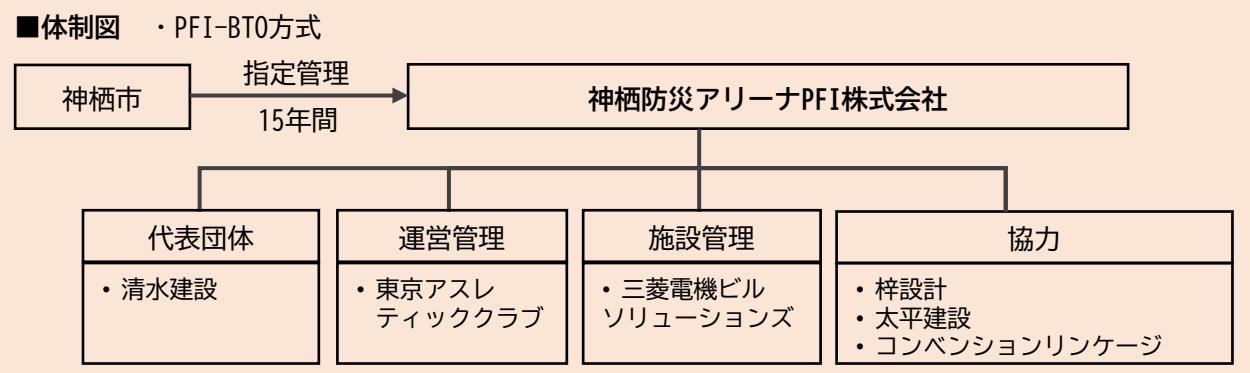


温浴施設



音楽ホール  
観客席300席

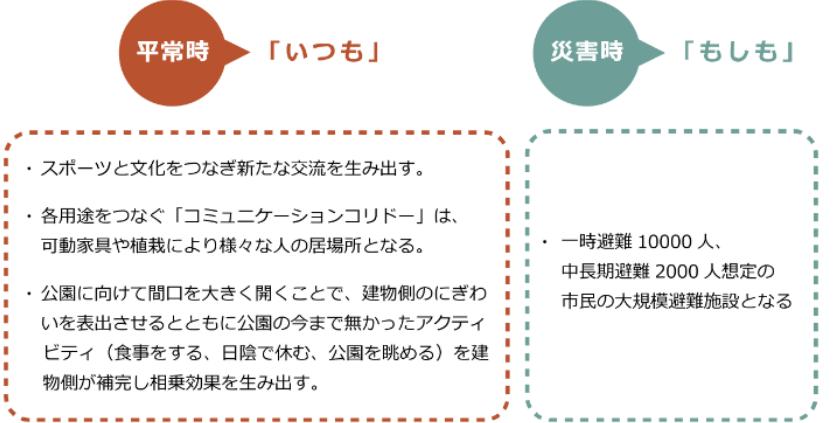
＜その他＞  
・会議室  
・キッズルーム  
・授乳室  
・カフェ  
・スタジオ  
・トレーニング室 等



構想・計画      設計・建設      管理・運営

○「いつも」と「もしも」が施設のコンセプト

- 市民から常に必要とされる施設へ
- ・この土地は、「防災公園」として整備するという土地利用基本計画が2007年に立案され、その後、2009年に国有地の払い下げが実現した。
  - ・2011年東日本大震災の甚大な被害により、避難場所の整備の必要性が高まったこと、また市内のスポーツと文化を育む施設が不足していたことから、これらを一体的に整備する検討が進められた。
  - ・検討の末、「防災公園」として、“いつも”（日常）と“もしも”（災害時）という基本方針が掲げられ、スポーツ、文化、防災というキーワードのもと、構想が具現化された。



○状況によって、フレキシブルに変えることができる空間構成

- 避難場所として留意することにより、日常の利便性が向上
- ・スポーツ施設と文化施設、各種交流機能をつなぐ170m×10mのワンルーム空間。通常時には施設を利用する人々のメインの動線となる。ひと目で見通せる空間は、災害時にわかりやすい避難施設となることも意図している。中間期には半外部空間として公園と一体的に利用することが出来る。



- 状況に応じて、多様なアレンジが可能となる空間
- ・家具には「知る・知らせる・運ぶ・光る・集まる・こもる・しまう・植える・座る・遊ぶ」などの機能が付加されており、使う人自らがカスタマイズし、状況に応じて多様なアレンジが可能なるものとする事で、平常時の賑わいの場が、災害時の助け合いになる場にかわるための仕掛けとし、市民が愛着を持ち、新たな活動拠点として日常的に集い、憩い、賑わう「いつものところ」となるよう工夫されている。



○誰でも気軽に来館してもらうための工夫

- 「時間やプログラム内容を工夫したイベントや教室」
- ・子ども連れの人や高齢者が参加できる水中ウォーキング教室など、幅広い世代で参加できるスポーツ教室を週あたり約80教室開催している。
  - ・20分間という時間を設定することで、体力のない高齢者や障害者でも参加しやすいショートプログラムを週あたり約20教室開催している。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日
9:00	SP1 ストレッチボール		SP1 バランスボール	SP1 ストレッチ
10:00				
11:00				
12:00	SP1 バランスボール			
13:00				
14:00				
15:00			SP1 ストレッチ	SP1 バランスボール
16:00				

休館

ショートプログラムのスケジュール例

- 季節性のイベント実施
- ・来館者が飽きないように、またスポーツをしない人でも来館して楽しんでもらえるよう、ハロウィンやクリスマスなど季節ごとにイベントを実施。

- 防災施設としての防災訓練を開催
- ・防災施設の拠点かつ多様な人が来館する施設であるため、女性、高齢者、障害者、外国人など多様な利用属性を想定した避難訓練を実施。



メインアリーナ / サブアリーナ

- アリーナに木材や自然光、自然通風を取り入れ、利用者にやすらぎを感じさせる設計
- 2階観覧席は車いすでもアリーナ全体が見やすい工夫

利用者にとって心地よいスポーツ環境の配慮が求められる。



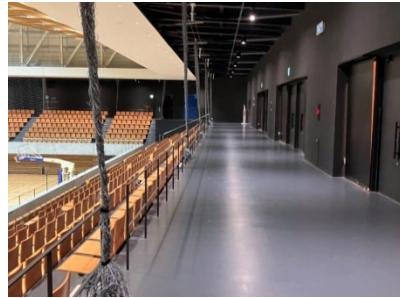
天井部には木鋼ハイブリッド部材を採用。耐震強度の確保とともに、平常時・災害時に利用者が木のぬくもりを体感。

アリーナは、様々な用途での利用を考慮するため、閉塞的な空間になりやすい。



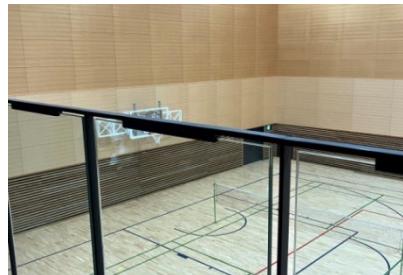
メインアリーナおよびサブアリーナ四周には、ハイサイドライトを配置し、自然光と自然通風を得られるような空間を実現。

車いす利用者が自由にスポーツを観戦する場所が少ない。



メインアリーナ2階を巡る通路は、車いす利用者のための観客席として設置。

観戦の際、手すり等が視界の妨げになる。



観覧席前の手すりを透明にて見通しを確保。また、手すり上部は、斜めに角度を付けることで車いすからの視線に配慮。

観覧席は試合中、照明を暗くすることもあるため、出入口や居室の場所がわかりにくい。



暗い中でもわかりやすいよう、黒い壁面との対比によるサインやシンプルなデザインを採用。

【設計上の工夫】

- ・「スポーツと文化をつなぎ、新たな出会いと交流を生む活動の場」というコンセプトを体現するため、にぎわい散策路を通して、アリーナやプールをガラス越しに見学することができ、各居室のアクティビティに触れる機会を創出している。



プール

利用者にあった更衣スペースが確保されていない。

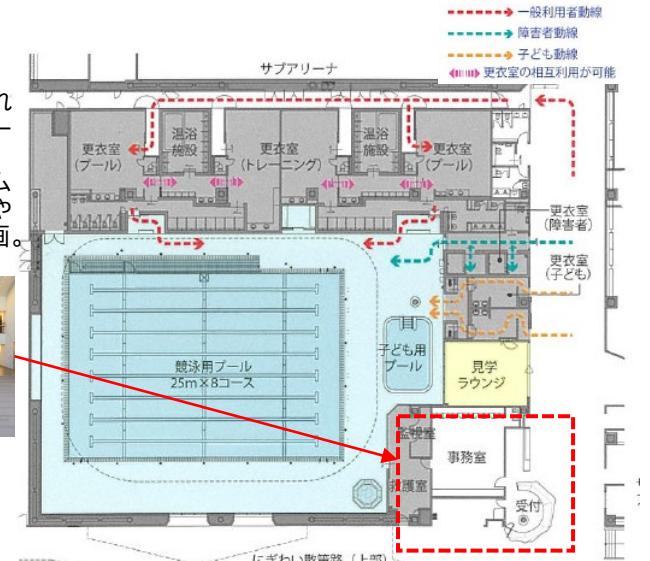


子どもの教室等もあることから、一般利用者、子ども、障害者の動線を分けた更衣室を設置。

大人、子ども、障害者それぞれの立場で、プールへの入口、ロッカールームを設け、使いやすい動線の計画。



プールの監視や管理運営上のトラブルが多いため、プールに近い受付の設置。



トレーニング室

通常のトレーニングマシンは障害者が利用しづらい



トレーニング室には、動きを止めると負荷がなくなるため身体障害者や力のない高齢者でも使いやすい油圧式トレーニングマシンを設置。



上部空間から、誰もが気軽に観覧することができる。



■「もしも」のときも、「いつも」のところへ～取組の工夫～



観客席ベンチ（メインアリーナ内）→災害時、横になることができる水平なベンチ。



移動可能な照明付き家具 →災害時、工業用コンテナを災害救援活動に活用。



車いす観客スペース →災害時は、幅員が広い他、避難スペースとして活用。



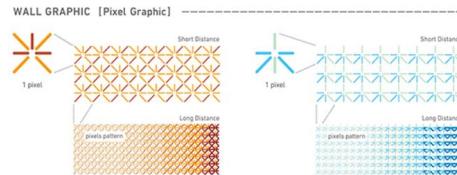
観客エリアへの移動エレベーター →災害時、利用でき、誰もが不自由なく移動可能。



自転車駐輪場 →災害時、バッド用避難スペースとして活用（柱にリードつなぐことが可能）。

■サイン計画

シンプルさ、美しさ、理解しやすさ。機能としてのサインデザインだけでなく、施設のアイデンティティ、施設全体の雰囲気までをカバーしたものとなっている。



利用者現状

利用人数



効果

- ・様々な利用目的で、平常時から多くの方が利用し、活気のある施設を実現。
- ・安心感と落ち着きを与える大スパンの木質空間、軽快で美しい設計等が評価。

<2019年度>



ほか多数

利用者 Voice

- ・身体に障害を持っていても参加できる水泳プログラムなどがあり、感謝している。
- ・季節ごとのイベントや温浴施設を利用したイベントなどもあり、何度来館しても飽きない。
- ・スポーツをする目的以外でも、広い公園や音楽ホール、交流イベントなどがあり、気軽に来館できる。

